

科研費研究会報告

アンダーソンモデルの厳密解と
その応用に関する理論的研究

昭和58年度 文部省科学研究費 総合研究 A

研究会報告書

課題番号 58340020

科研費総合研究A「アンダーソンモデルの厳密解とその応用に関する理論的研究」
研究会報告書

上記標題の研究会を大阪大学基礎工学部国際棟Σホールで開催しました。この研究会は総合研究Aの金森班（「 d および f 電子を含む系の金属状態および準金属状態の理論的研究」）と合同で「 d および f 電子系」の合同研究会として昭和59年12月19日より21日まで開かれたものです。この合同研究会は研究者の多くが興味の対象を同じくしていることもあって活発な討論もあり成功したと思っています。研究会にはお名近くの方々が出席されましたが報告に関してはまた独自の方法で行うことにし、研究会の後半12月20日の午後から21日の午前にかけて行われた私達の研究班の内容のみをこの場をかりて皆様方にお伝えする次第です。なお講演していただいた方々の持時間はい人40分、さらに討論時間を20分と時間的にゆとりとした研究会であった関係上、内容紹介もていねいに長いものも書いていただきました。

昭和59年2月10日

研究代表者 阪大工 興地斐男

目次

「 d および f 電子系」合同研究会

Ⅱ. 「アンダーソンモデルの厳密解とその応用に関する理論的研究」

時間に依存するアンダーソンモデルの厳密解の取り扱い

馬越健次（阪大基礎工）

アンダーソンモデルの熱的性質

川上則雄（阪大工）

中間濃度領域の近藤状態（ f 電子系近藤状態の現状）

糟谷忠雄（東北大理）

アンダーソンの直交定理の一般化とその応用

山田耕作（京大基研）

フェルミ面効果

近藤淳（電総研）